

# 誦訪中 だより

多摩市立誦訪中学校

ユネスコスクール認定校

〒206-0024

多摩市誦訪5-12-1



令和6年11月26日

第7号

## 秋の終わりに

校長 齊木伸郎

「～の秋」という言葉がありますが、今年は体感的に秋を実感した期間がとても短く、あっという間に過ぎてしまった印象です。私も読書に費やす時間が、いつもの年より少なくなってしまいました。

さて、この秋に読んだ本の中で、印象に残った本は、宮島未奈さんの「成瀬は天下を取りに行く」とその続編でした。これは、今年の本屋大賞をはじめ文芸各賞14冠に輝いているものです。帯には「かつてなく最高の主人公現わる！」と書かれているように、この作品の魅力は、とにかく主人公の生きざまが斬新なところ です。

主人公は、中学2年生の成瀬あかりという女の子です。まもなく閉店を迎える地元唯一のデパートの前で、毎日夕方の地元ニュースに映り込み続けると宣言する話からスタートします。その後、M-1に出たり、高校の入学時には髪の毛の伸びを実験するため丸坊主になったりと、突拍子もないことを全力で突き進んでいきます。地元愛が強く、大学生になると、地元の市の観光大使を務めるようになります。本を読んでいくうちに成瀬の話す言葉や行動に惹きつけられ、決して誰にも流されない彼女の前向きな姿勢に勇気と元気をもらいました。

主人公の成瀬あかりは、本当に突き抜けています。よく言えば「個性的」ですが、とことん我が道をいくマイペース人間。容姿の良さもそれなりにあり、頭も良い、しかし、一方で空気は読めず、無表情でぶっさらぼう。誰にも遠慮せずに思ったことを言うてしまう。これは周りから疎まれてしまう危険性をはらみ、実際、小学校時代にはいじめに遭っていたと書かれています。

でも彼女の良いところは、いじめられていた彼女に助けを差し伸べることができなかった幼なじみのことも心の底から大切にすし、意地悪な周囲からの言葉にも素直に耳を傾けること。うまくいかない時が多くても、くじけずに次の目標を見つけようとするところ です。

世間では時として、いかに頭の良い子でも、一定の範囲から逸脱している人を変わり者扱いする傾向があります。しかし、この物語では、周りの友人は彼女の個性を認め、一目置きつつもごく普通に接しています。様々な個性をもった生徒が伸び伸びと自由に自分らしさを発揮し、互いの良さを認めて尊重し合う。まさに理想とする姿ですが、改めて誦訪中生にはそのような生徒になってほしいと願わずにられません。

また、親目線でこの物語を見た時には、子供が上手い出来ないことがあったとしても、我が子を信じて「自信」というかけがえのないものを与え、この先の進む道を支えていくことが大切なのだと思改めて気づかされました。

終わりに。詩人の谷川俊太郎さんがお亡くなりになりました。中学生にとっては、絵本や童話の作家として、また、小学校の教科書にあった「スイミー」や漫画スヌーピーの翻訳者、合唱曲「春に」の作詞者として知られているかと思います。私は、若い時に「生きる」という詩に感銘を受け、初めて詩集を買ったことを思い出しました。言葉の大切さ、言葉がもつ力について考えさせてくれる谷川俊太郎さんの作品にもう一度触れ、その世界観を感じ、谷川さんを偲ぶ「読書の秋」としたいと思います。